

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471900187		
法人名	社会福祉法人	慈 照 会	
事業所名	グループホーム	ゆ う ば え	
所在地 (電話番号)	三次市山家町607-12 (電 話) 0824-62-8801		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 1月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12 人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 1 階建て	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 500円/月 プラス実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.0 歳	最低 78 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立三次中央病院、ビハークラ花の里病院、西村歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人「慈照会」を母体として平成11年1月に開設されたこのホームは、三次市郊外の自然環境に恵まれた広大な敷地の中にあつて、保健・医療・福祉の各施設に囲まれた理想的な高齢者生活環境にあるグループホームである。仏典の「慈悲の心」を理念にとりいれ、全職員が愛情と思いやりをもってきめ細かなケアを行なっている。職員と利用者は共に支え合いながら、ゆったりと普通の生活をしていて利用者の表情は生き生きと明るく落着いている。

平

平

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ① 運営理念の啓発については地域活動や運営推進会議等を通じて積極的広報活動を行なっている。② 過去の経験を活かしたケアについては日頃の会話を通じて生活歴の把握に努めている。③ 緊急時の対応についてはマニュアルを整備し実地訓練を重ねている。④ 地域の人達との交流については地区ボランティア総会、運営推進会議、町内会等への参加、施設の開放等を通じて積極的に推進しサービスの質の改善につなげている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者・計画作成担当者・一般職員を交えて全員で検討し問題点の掘り起こしを行ない、改善に結びつけサービスの質の向上につなげるよう積極的に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月に1度会議を開催することにしており、構成メンバーは利用者、利用者家族、地域代表(民生委員)、市職員、施設職員となっている。 会議は施設側から利用者の状況、重要事項説明、自己評価、外部評価等についての報告を行なうとともに、地域交流の推進について意見交換を行ないサービスの向上に結びつけている。会議の結果は全職員で共有し館内に掲示している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時にホームから現況説明を行なうとともに家族から意見・要望を聴取している。毎月発行する「ゆうばえ便り」は19年8月で102号に達し、利用者の暮らし振りが家族によく伝えられている。また苦情や相談については重要事項説明書や契約書に詳しく説明するとともに玄関に「ご意見箱」と記入用紙・筆記用具を置き意見を前向きに受け止め運営へ反映させる体制ができています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会活動や地域行事への参加、地域のボランティア団体との積極的交流、地域交流ホームへの参加、グループ施設の開放、「ゆうばえ便り」による広報活動などを通じて地域との関わりを深めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	仏典の慈悲の心を法人グループの理念として心に深くきざみ、家庭的な雰囲気の中で「心身の痛みを緩和し」「心を癒し」「生活に満足できる」を目標とし、共に支え合いながら地域の中でその人らしく生活をしていくための理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は重要事項説明書や案内パンフレットに明記するとともにホーム内にも掲示されている。朝礼やミーティングで職員全員が理念を確認し共有化し具体的なケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティア団体との積極的交流、町内会、自治会行事等地域活動への参加、グループ施設の開放等により地域との交流を深めている。また「ゆうばえ便り」による広報も行ない地域からの理解を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全員が理解し前回評価の改善点についてミーティング等で研修を重ね、サービスの質の改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回会議を開催し、ホーム側から、ホームの現況説明や報告を行なうとともにサービス向上のための今後の取り組み等を説明しメンバーからの助言や提案を受けて具体的に目標をたて実施に向けて努力している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と協力しながらグループホームとして認知症に関する講演会や研修会を実施している。 市の担当者との連携を充実させるとともに、より一層のサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回「ゆうばえ便り」でその月の出来事や暮らし振りを伝えるとともに毎月の小遣いの使途についても報告している。また家族の来訪時には日々の生活の様子や健康状態を話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や契約書に苦情受付・相談について詳しく説明・記載するとともにご意見箱を設置している。また家族との面会時に不満、苦情を聞き、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を配慮してできるだけ最小限の人事異動を行なっている。利用者の生活状況にあわせ適切なローテーションを行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体での教育計画を立てていて、法人内外の研修を全員が順次受けれるような機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や外部講習会で情報交換を行なうことはあるがグループホーム同士の交流は行なっていない。	○	他のグループホームとの交流を深め、相互に研修をすることにより、更にサービスの質を向上されることを期待する。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられるように、利用開始までに施設の雰囲気に慣れてもらうため、事前の面談や体験利用を実施する機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、支え合い、利用者から学びながら生活し、先輩に対する敬意の念を持って暮らしの中のあらゆる場面で利用者が活躍できる場や楽しめる場を提供できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者や家族の話を聞き、意見を聞くなかで本人の希望や意向を把握し、その人らしい生活を楽しめるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・関係する職員とよく話し合いそれぞれの思いや意思をしっかりと把握したうえで、利用者がその人らしく暮らしていくための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には介護計画の期間に応じた見直しを行なっているが状況の変化があればその都度関係者で充分話し合い現実に沿った見直しを行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出支援のほかに、希望に応じて通院・一時帰宅・外泊・墓参り・同一グループ施設のレク活動への参加など可能な限りの柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を法人グループの関連病院に変更することで了解を得ているが、従来からのかかりつけ医の受診を希望する人には、継続して受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について「重度化・看取りに関する指針」を作成し利用者・家族に説明し、「同意書」を受け取っている。 職員は具体的方針を共有するため意識向上に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である利用者に対し常に尊敬の念をもって言葉かけや対応をするように心掛けている。特に排泄時や食事の支援など本人の尊厳を傷つけないように注意している。個人情報保護については職員全員がよく理解し、厳重に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動くのではなく、一人ひとりのペースや希望を把握しその人らしく生活できるように支援している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・調理・あと片付けなどは出来る人には一緒にしてもらっている。また食事も利用者と一緒と同じ食事を食べ職員はさりげなくサポートしている。献立についてにはなるべく利用者の希望を取り入れるよう心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯を職員の都合で一方的に決めるようなことはせず、気持ちよく入浴してもらえよう声かけや会話をし、出来るだけ希望の時間に入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し利用者がそれぞれの得意な分野で本人の力にあった役割をされたり、楽しみごとを行なえるよう生活の支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候を見ながら散歩、買い物、地域行事や季節ごとの行事への参加、畑づくりなど外出機会が増えるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全ての職員が理解しているわけではなく安易に鍵をかけてしまう職員もいる。また、建物の構造上、死角になる場所には常時施錠されている。	○	鍵をかけない暮らしの大切さについて再認識し、鍵をかけない工夫を職員全員で検討されるよう希望する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一敷地内に関連施設があり、緊急時のマニュアルや非常時連絡網による協力体制ができている。また防災計画に基づき年2回以上(夜間想定1回)の避難・救出訓練を行なうとともに防災設備の維持管理については年2回行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表を通じて摂取量を確認している。水分量が少ない人については水分補給時間以外にも摂ってもらうなど、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い中庭を囲む形で個室(洋12、和6)が3室ごとに1グループとして配置され、それぞれ専用のスペースとトイレ・洗面台が確保されている。共用の空間には台所と一体型の食堂が屋外テラスに面して設置されていて掘ごたつのある6畳敷きの共用の居間とともに利用者の団欒の場となっている。共用空間の飾りつけや音・光は適度であり、居心地の良い家庭的な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔であり、居心地よく自分らしい生活ができるように利用者の使いなれた家具や調度品などが持ち込まれている。また思い思いの飾りつけもなされ、利用者の状況に応じて家族と相談したりして居心地の良い空間作りに努めている。		

NPOインタッチサービス広島

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人として理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を共有し、取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	法人として地域交流はしており、理念を理解してもらっている。運営推進会議などを通じて理解してもらえるよう取り組んで行きたい。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的なつきあいが立地条件のためできにくいですが、地元の祭りがある時や散歩に出た時などは言葉を交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のボランティア団体と交流していく予定でボランティアの会議に参加して了解は得ている。今後、ボランティア団体と話しをつめていく予定。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人として、認知症の講演会を実施している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の外部評価で指摘された緊急時の対応について、研修会を協力病院の看護師を講師にまねき、実施した。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	第1回目を7月に開催した。初めは、施設の説明を中心にしたため、今後はサービス向上に向け、具体的に目標をたて、実施していく。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市と協力しながら認知症に関する講習、研修会をしている。市との担当者との連携を深めていきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今のところ、入居者の中には権利擁護について必要な方はいないので、支援していない。必要な方がおられる時には支援していきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングで、虐待について職員間に理解をしてもらっている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情は常に接しているので、その都度、運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月一回便りを作り、家族に送付している。その際、毎月のお小遣いの便途についても報告している。面会にいられた時に日々の生活の様子や健康状態を話している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱をもうけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見箱を設置している。月に1回は個人面談している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員間で必要に応じて勤務調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できるだけ、必要最小限の人事をおこなっている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修の機会の確保はしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会の時、同業者と話しをし、意見交換などを行っている。	○	今後、同一法人のグループホームと交流をしていく予定である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	意見の聞き取りをおこなっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事考課制度を導入している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面会することで、本人が不安にならないかぎりは会って話す機会をもうけている。面接時には本人の気持ちを聞くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用日が近づいたら定期的に連絡を取り、本人の状況把握はもちろんのこと家族の思いも聞く機会を設けている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況で、他のサービス利用が適していると判断した場合は、他のサービス（施設利用など）を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前見学をしてもらっている。面接時に相談員、担当職員と一緒にいる。利用開始までに、職員や利用者や施設の雰囲気に慣れてもらうよう、何度か施設にきて過ごしてもらえるように心がけている。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、入居者から学ぶこともある。個々の状態の把握をし、入居者が活躍できる場面を今以上に増やしていきたい。		
----	--	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの意見があった場合は聞きいれている。面会時に入居者が喜ばれたり活躍されたことを話し、家族とも同じ気持ちを共感している。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	よりよい関係が築けていける様支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院や自宅訪問等して支援につとめている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の方の性格を把握し、個人に合った対応をし、孤立しないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	そのような状況が今までない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ本人に合ったケアプランをたてている。本人の思いや、ここでの暮らしについて話しをする場を今以上に作って行きたい。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みの物を持参して頂き、より家庭に近い暮らしに近づけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できることを生かして、その人にあった暮らしを負担がかからない様に行ってもらっている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や入居者の意見や思いを聞き、職員が作成している。作成後、家族、利用者に計画の説明を行い、了解をえている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの時期までに変化がある時にはその都度介護計画の変更をしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記入している。日々の様子や気づきの記入を増やしていきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日常的な外出の支援や、通院の支援をしている。家族の宿泊もできる。入院時には早期退院にむけて支援している。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在は地域資源との協働をしていないが、意向や必要性が生じた時には地域資源と協力しながら支援していきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスは利用していないが、意向や必要性が生じた時には支援していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働して行く予定である		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	月に一回はかかりつけ医のもとに受診している。体調の変化やいつもと違った状態の時などは病院へ報告し相談をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医師に日頃の状態と変わったことがあれば報告し、アドバイスをもらっている。薬の調整も医師と相談しながら行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に一回看護師に健康チェックをしてもらいながら、その時日頃気になっていること、その日の状態を話しながら相談をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院の相談員と連携し、入院中の状態を聞いたり退院がスムーズにいくように連絡をとりあっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化、終末期のあり方について指針をつくり、説明し同意をえている。	○	職員全員で、重度化、終末期の介護のあり方について勉強会を開き、勉強をしていく予定。協力病院ともより連携体制を強化していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期についての支援にとりくんでいない。	○	事前に、重度や、終末についての心がまえと、勉強会を繰り返し行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	別の居所に移り住む場合は、サマリーを使用したり、連絡を取り合うなど、情報交換を行い本人が負担にならないように勤めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけに気を付けている。今後も言葉かけには気をつけていきたい。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自ら言われた時にはすぐに対応し納得できるように支援している。自らの思いやしてみたいことを自然に言える雰囲気作りをしたり、職員から問いかけたりして自分で決めたりできる機会を今以上に増やしていきたい。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今以上に、個々のやりたいことや希望をきいていき、それにそえるようにしていきたい。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	好みの服を着られたり、お化粧をされる人は続けてできるように支援している。美容院はなじみの店に行っている。		
----	--	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聞きながら献立をたてていきたい。準備は時々一緒にしている。食事は職員も入居者と同じ物を一緒にたべている。食事作りに関わり、活躍できる場面を今以上に増やしていきたい。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お店に行った時には好みの食べ物を食べたり、購入したりしている。面会時に持って来られた物を部屋におかれて食べられたりされている。たばこを吸われる方は喫煙場所を決めて喫煙してもらっている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便の失敗はあるが、失敗時には不快な思いをしてもらわないよう努力している。排尿時は、一人一人の力をいかにせるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は決めているが、入る順番は希望のある人は希望どおりにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	部屋で休みたい人には休んでもらい、表情などをみて休息が必要そうだったらその都度休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の力にあった役割をされたり、楽しみごともある。生活歴を普段の話しの中で聞いたり、面会時に家族の方から聞いたりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員ではないが、個人でお金を所持されている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調や天候をみて外出をしている。買い物に行ったり、花がきれいな頃には花を見にいたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	ドライブに出かける時、今まで行ったことのないところへみんなで出かけたりしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	相手側からかかった時のみで、自らからの電話はない。自ら電話をかけたり、はがき、手紙のやりとりができる雰囲気作りや、声かけをしていきたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問してもらっている。お茶をだし、部屋やコーナーを使ってもらいゆっくり過ごしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を職員が全員理解しているようにしていきたい。拘束をしないケアに取り組んでいきたい。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	なるべく日中は玄関の鍵をかけずにいるが、職員が手薄になる時は安易に施錠することもある。建物の構造上死角になる場所（コーナーの窓）には常時施錠されている。	○	弊害について理解し、職員で勉強会をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士声をかけあいながら、意識して場所確認をしているが、所在が不明な時がある。その時には、すぐに職員同士声をかけあって所在の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	転倒の危険性のあるものなど危ない物は取り除くが、本人にとって必要な物はおいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の対応の勉強会を行った。危なかったことを伝えあったり、事故の改善策を話しあったりし、事故防止を心がけている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	実際に行ってみないとわからない事、気づかないことがあるので、応急手当や初期対応ができるように今後も訓練を行っていきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	同敷地内に関連施設があり、緊急時のマニュアルや連絡網による協力を得ている。また、定期的に避難訓練がある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	生活の中で危ないと思ったことを面会時の時などに、家族の方へ状態を伝え、対応策を話し了解をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	発見は比較的できている。今後も、職員同士で気がついたことは小さなことでも伝えあうようにし、不在の職員には申し送りをしていようしたい。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての薬については把握できていないが、わからない時や、新しい薬がでた時には処方箋を確認している。特に、新しい薬がでた時には体調の変化などに気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	野菜は多くとるようにしているが、体を動かすことが少ないため、運動をする機会を増やしていきたい。便秘薬にたよっている傾向がある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	昼食後に口腔ケアをしているが、その他はしていないため、口腔ケアの回数を増やしていきたい。週二回ポリデントにつけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量をチェックし個人個人の把握はしている。一人一人の状態や力に応じて支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	次亜塩素酸で拭き掃除をしている。流行する時は特に手洗い、うがいを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具をハイターにつけているが、毎日徹底してできていないため、こまめに消毒をしていきたい。冷蔵庫、食器棚の掃除を定期的にしていきたい。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入口の階段には手すりをつけている。玄関前には紅葉の木や、植木もある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあうものを壁に飾るように心がけている。中庭があり、中から季節の草花が見ることができる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	コーナーにテーブルと椅子を置いている。一人で過ごされることが少なく、何人か一緒に食堂や居間で過ごされることが多い。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や小物の持ち込みは自由である。本人が安心できる物（本・写真）や使いなれている物を持ってこられている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は冬以外ほとんどできている。温度調整はエアコンをつけたり消したりして調節している。冬は電気毛布を利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には段差はなく、必要なところには手すりがついている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	部屋の入口に名前を書いたり、トイレには「便所」と札をしているが、まよわれることがある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダでは洗濯物を干している。また、そうめん流しや焼き芋などに利用している。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ☐ ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② ☐ 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ☐ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ☐ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ☐ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ☐ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ☐ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ○ ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ ○ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ○ 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ ○ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② ○ 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

t I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人として理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は共有しているが、実践としては取り組んでいない。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	法人として地域交流はしており、理念を理解してもらっている。運営推進会議などを通じて理解してもらえるよう取り組んでいきたい。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的なつきあいが立地条件のためできにくいですが、地域の祭りがある時や散歩に出かけた時などは言葉を交わしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のボランティア団体と交流していく予定でボランティアの会議に参加して了解は得ている。今後、ボランティア団体と話を つめていく予定。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人として、認知症の講演会を実施している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の外部評価で指摘された緊急時の対応について、研修会を協力病院の看護師を講師にまねき、実施した。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	第1回目を7月に開催した。初めは、施設の説明を中心にしたため、今後はサービスの向上に向け、具体的に目標等を立て実施していく。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市と協力しながら、認知症に関する講習・研修会をしている。市の担当者との連携を深めていきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今のところ、入居者の中には権利擁護について必要な方はいないので、支援していない。必要な方がおられる時には支援していきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングで、虐待について職員間に理解をしてもらっている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情は常に接しているの、その都度、運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月一回便りを作り、家族に送付している。その際、毎月のお小遣いの便途についても報告している。面会に来られた時に日々の生活の様子や健康状態を話している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設けている。面会時に家族より不満、苦情を聞き、運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見箱を設置している。月に1回は個人面談している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員間で必要に応じて勤務調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できるだけ、必要最小限の人事をおこなっている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修の機会の確保はしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会などで同業者と話す機会を持ち、意見交換をしている。	○	今後、同一法人のグループホームと交流をしていく予定である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	意見の聞き取りをおこなっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事考課制度を導入している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面会することで本人が不安にならないかぎりは会って話す機会を設けている。その際本人の気持ちを聞くようにしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用日が近づいたら定期的に連絡を取り、本人の状況把握はもちろんのこと家族の思いも聞く機会を設けている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況で、他のサービス利用が適していると判断した場合は、他のサービス（施設利用など）を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に見学をしてもらったり、面接時には相談員、担当職員と一緒にいる。利用開始日までに、職員や他の利用者や施設の雰囲気に慣れてもらえるよう、何度か施設に来て過ごしてもらえるように心がけている		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で本人が活躍できる場や、楽しめる場を、1日のうち何度かは提供できるように心がけている。喜怒哀楽を共にし、利用者が活躍できる場面を今以上に増やしていきたい		
----	---	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には、本人の状況を話す場を必ずもうけている。特変事項だけではなく、生活の中で活躍されたことなども伝え、一緒に喜びを分かち合えるようにしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまで本人が過ごしてこられた家族との関わりを理解し、面会時等にはその状況が保てるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまでの人生において、大切にされてこられた場所や人の把握に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶やご飯の声かけなど、利用者同士で声かけをしてもらう機会を設けている。ADLが低下している人の手助け（食事の配膳等）もしてもらっている。他の入居者と関わりを持ちにくい入居者に対しては、職員が努めて関わりや声かけ等している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された方や他施設に入居された方など、できる範囲でお見舞いや面会に行く等している。見かけた時にも必ず声をかけるようしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを聞くなど、ここでの暮らしについて話をする場を今以上に作っていきたい。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に聞いたり、以前利用されていたサービス担当者に聞く等し、把握に努めている。共に生活している中で、新しい一面を発見することも多々あり、その都度関係者に確認をとる等している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	特変など見られれば、申し送りや各ユニットのミーティングなどで把握するよう努めている。持てる力を十分に発揮できるよう、介護計画に取り入れていきたい。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や利用者の意見・思いを聞き、職員が作成している。作成後、家族・利用者に計画の説明を行い、了解を得ている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの時期までに、本人の状態が変化したときには、その都度見直しを行い、介護計画の変更をしている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記入している。日々の様子や気づき等、増やしていきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日常的な外出の支援や、通院の支援をしている。家族の宿泊もできる。要望はできるだけ聞き入れるようにしている。		
----	--	---	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在は地域資源との協働はしていないが、意向や必要性が生じた時には地域資源と協働しながら支援していきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスは利用していないが、意向や必要性が生じた時には支援していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働していく予定である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に、主治医を関連病院に変更させてもらうことの了解を得ている。家族の希望があれば、他の病院に受診している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医が認知症ケア専門士の有資格者であり、月1回は必ず定期受診をしている。特変があればいつでも相談ができ、必要に応じて受診することができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回、関連病院より看護師が健康チェックに来られる。特変があれば相談するなどし、健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	関連病院への入院の場合は、相談員または病棟の看護師と連絡を密にとったり面会に行く等し、本人の状況確認に努めている。関連病院以外への入院の場合は、面会に行き状況確認に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化・終末期のあり方について指針を作り、説明をし同意を得ている。	○	職員全員で、重度化、終末期の介護のあり方について話し合っ協力病院ともより連携体制を強化していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期についての支援にとりくんでいない。	○	事前に、重度化や終末についての心構えと、勉強会を繰り返し行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族には現在の状況を常に報告している。事前面接に来られた際には、情報交換を十分に行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誇りやプライバシーをできるだけ損ねないように、言葉や対応に気を付けている。今後も人生の先輩であることを常に念頭に置き、敬いの気持ちをもって言葉や対応に気を付けていきたい。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	必要に応じて説明し納得してもらっている。職員サイドで動かず、できるだけ自己決定できるような声かけや働きかけを心がけたい。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合で動くのではなく、一人一人に希望を聞くなどし、その人らしく暮らして頂けるようにしたい。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	全員ではないが、家族の了解を得て入所以前より利用されていた美容院に行っている。好みの服を着られたり、化粧をされる人には続けてできるように支援している。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聞きながら、一緒に献立を立てていきたい。食事の準備、片付けに関わって頂き、食事は職員も同じ物を一緒に食べている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日ではないが、買い物に出掛けた際に食べたいものを選んでもらい購入している。お茶の時間など、本人に飲みたいもの・食べたいものを選んでもらう機会を増やしていきたい。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	業者と相談しながら、その人その人にあった紙パンツやパットを使用し対応している。排泄パターンの把握に努め、その人にあった声かけや誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夜勤が1名体制の為、夜間入浴はできていない。入浴拒否をされる方は多いが、気持ちよく入浴してもらえるよう声かけや会話に努めている。人によっては時間をずらすなど、機嫌を見計らって入浴することがある		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人入眠時間は異なるので、起きておられる間は好きなテレビ番組や本など見てもらったりしている。ベット周り等の環境（鍵やカーテンの隙間、灯り等）が気になる人には、きちんと環境を整えて臥床されるまで支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を日常会話の中や、家族の面会時に聞くなどし、本人の力にあった役割や、楽しみごとをもてるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員ではないが、お金を持たれた方もおられる。買い物に出掛けた際には本人が使える機会を持つ。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時間がある時には、体調や天候をみて出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	月1回は生活圏外に出かけたり、希望に応じて家族や友人と出掛ける機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	職員が家族に電話をかけた時や、家族からかかった時に、本人と代わって話して頂くことがある。今後は、本人自ら電話をかけたり、手紙を書く等の支援をしていきたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には居室や、各コーナーでゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。宿泊も受け入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	園内研修等に参加し、身体拘束について学んでいる。 禁止の対象となる具体的な行為を職員が全員理解しているようにしていきたい。拘束をしないケアに取り組んでいきたい		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	建物の構造上死角になる場所（コーナーの窓）には常時施錠されている。なるべく日中は玄関には施錠しないが、職員が手薄になる時に安易に施錠することもある。	○	施錠することによる弊害について理解し、職員全員で勉強会をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は利用者の所在を把握しており、目の届かない場所（居室内等）におられるときには、お茶を持って行くなどしたり、職員同士声を掛け合うなどし状況把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に合わせて、物品管理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の対応の勉強会を行っている。また、職員間で危なかったことを伝え合ったり、事故の改善策を話し合ったりして、事故防止を心がけている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	関連病院の看護師による応急処置の講義、演習を受けている。実際におこなってみないとわからないこと・気付かないことがあるので、初期対応や応急手当ができるように今後も訓練をおこなっていきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	同敷地内に関連施設があり、緊急時のマニュアルや連絡網による協力を得ている。また、定期的に避難訓練がある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者の身体機能低下や認知力の低下が見られたときには、起こり得るリスク等家族に都度説明している。また、夜間は1名体制の為リスクについては入居時の説明で了解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化は、朝の申し送り等で情報を共有している。各ユニット毎でミーティングをし、特変の際には都度対応策を話し合い、各ユニット毎のノートを活用し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	大まかには把握している。薬の変更時には、副作用による体調変化など様子観察に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事については、繊維物、野菜等を取り入れている。水分摂取は、本人の嗜好を取り入れ摂取に努めている。運動については、日常的に体を動かす時間を持ちたい。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日昼食後に口腔ケアを行っているが、それ以外はできていない為、回数を増やしていきたい。週二回ポリデントにつけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量はチェック表を通じて摂取量を確認している。水分量が少ない人については、水分補給時間以外に摂ってもらったり、本人の嗜好も考慮し摂ってもらうよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染症についてのマニュアルを作り対応している。毎日次亜塩素酸で拭き掃除をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は使用後には必ず乾燥機にかけたり洗剤を使用したりと、除菌に努めている。冷蔵庫、食器棚の掃除を定期的に行っていきたい。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	プランターに花を植えて飾ることがある。1年を通じて、玄関先にプランターを利用した花植などをし、親しみやすい雰囲気を作りたい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の物を目のつく所に掲示したり、季節の植物(馴染みのある物)を飾ったりし、季節が常に関心されるような心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各コーナーには椅子やテーブル、居間にも椅子や畳、掘り炬燵などが設置されており、各自自由に利用されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みは自由であり、居室には本人にとって馴染みの物(筆筒や鏡台等)を持ってきて頂くよう入居時に説明している。入居後は本人の状況に応じて、家族と相談したりして空間作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏の温度調節は、職員優先になっていることがある。居室の換気は、長時間継続して換気ができない方もおられるが、本人が他のことに気が向いているとき等を利用し、換気に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、和室の居室入り口、浴室(脱衣場・浴槽内)、玄関等に手すりを設置している。玄関には腰掛けを設置し、靴の脱ぎ履きにも安全に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日常生活において、混乱されないように声かけや対応に気を付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭には植物（花や、野菜）が植えてあり、それを見て喜んでおられる。ベランダは物干しの利用や、お茶をしたり、行事（焼き肉・そうめん流し・焼き芋等）で利用している。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○ 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② ○ 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② ○ 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ○ 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ ○ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② ○ 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目